

満足しているものは九〇%で公務員四五%全体の平均七二%より多い。

自分自身が自分の職業と両親の職業は関係があると思う人は一九%に過ぎないが、会社員の両親は会社員が、幼教・保母の両親は教員が一番多い。

幼稚園に行った人は全体の平均三五%、公務員四二%会社員四〇%に対して幼教・保母二八%であるのは、家庭の経済生活のあらわれかとも思えるが、幼稚園に行った人たちの中で幼稚園の先生の印象が残っているものは全体の平均七八%に対し、幼教・保母は九八%で圧倒的であったのはこの道に入るのに影響があったと同時に、現在の仕事の関係で先生の印象を新たに甦らせたとも云えよう。子どもが好きか嫌いかの欄では大好き・好きが全体の平均七二%に対し、幼教・保母は八七%公務員五二%、普通は全体の平均二四%に対し幼教・保母一三%公務員三二%、嫌いは全体の平均二%に対し幼教・保母は〇、公務員は二五%と桁ちがいであるのは対照的であった。

人生の中で一番貴いものは社会愛・宗教的価値と回答したものの幼教・保母七四%、公務員三九%、誰のために人生を送っているかという欄で不幸な人の為・社会の子どもの為と回答したものの幼教・保母は五六%、公務員一五%で、職種により、こども人生観が違うかと驚きを感じ、職業の選択は青年期だけでなく、幼児期の親の職業や保育施設職員の印象なども、多少でも影響があることを知った。

* * *

幼年期の言語指導について

安田女子短期大学付属幼稚園 樋口貞代
安田学園 安田小学校 住田信代

小学校は毎年多くの児童を幼稚園、保育所または家庭から迎えるのであるがその新入児童はどのような実態を持っているのか、それを見極めることはその後の指導に必要なことである。

また、幼稚園や保育所としても、どの程度に文学とか数とかを取扱っておけばよいのか、ということを取学前幼児の実態から考えてみることも大切である。今回は、その一部の国語能力の面からみた実態について主として小学校の立場から発表したわけである。

実態調査については、阪本一郎氏の国語レディネスの診断テストを使用した。本稿にてはその中の二点について記すことにする。

第一は、「最近三カ年の就学児童のレディネスの実態とその傾向について」

第二は、「幼稚園や保育所を経過したものと、そうでないものと」のレディネスのある熟度の比較」である。(図表省略)

国語能力を伸ばすものは何と言っても、豊かな生活経験と語いである。試みに、施設通児と不通児の読書レディネスを比較して

みると、その読青年令の差は九カ月もあることをみても判る。その他、絵をみてその意味を話したり人のことばを理解してそのことばに従うなどの発達は約二か年の開きをみせている。このような調査の結果、幼稚園は、文学や数を指導することの可否を認するよりも、ともかく、豊かな生活経験をさせ、まず治すこと、きくことの指導を十分になし、豊かに整えられた環境の中で子どもの生活を充実させてやれば、知的な能力、特に読みのレディネスは相当の進歩をするものであることを痛感したのである。なお、施設に恵まれない子どもの救済についても国家として大いに考慮してほしい。

ことばの聴き方

テストの結果について

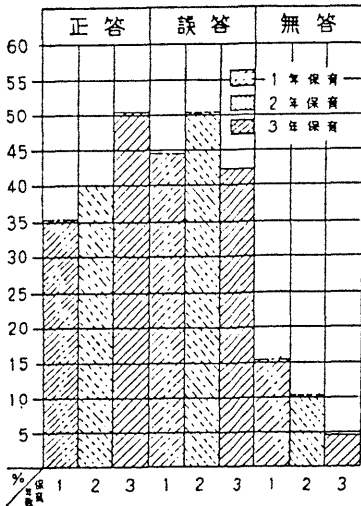
静岡県立保育専門学院 小木曾光子

幼児の言語教育は話すこと、聞くことの指導に重点がおかれてい
る。話す活動は直接的に観察出来るが聞くことの方は出来にくい。

2	1	目的	実験期間	実験方法
保育された年数によ る能力のちが	このテストは何才頃 から実施出来るか	自昭和三三年三月 至〃〃〃五月	コロソピアレコード SK六六廻転数セハ 日本文化科学社発 （ことばの聞き方テ スト）用紙	
	同	右		

表二 目的二の結果

イ 保育年数別の回答



ロ 項目の回答

